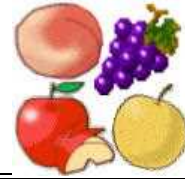




平成29年度 果樹情報 第4号

(平成29年5月 2日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (4月下旬：果樹研究所)

4月5～6半旬の平均気温は、5半旬が11.8℃で平年より1.1℃低く、6半旬が13.9℃で平年より0.1℃高く経過しました。

この期間の降水量は0.5mmで平年の2%でした。

2 発育状況 (果樹研究所5月1日現在)

(1) なしの満開は、「幸水」が4月26日で平年並、「豊水」が4月24日で平年より1日遅れました。

(2) りんごの開花始は、「つがる」が4月26日で平年並、「ふじ」が4月27日で平年より1日遅れました。満開は、「つがる」「ふじ」とともに5月1日で平年並でした。

(3) おうとう「佐藤錦」の開花始は4月22日、満開は4月28日でともに平年より3日遅れました。

(4) ぶどう「巨峰」の展葉は4月25日で平年並でした。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月12日	4月14日	4月5日	4月17日	4月20日	4月11日
	ゆうぞら	4月14日	4月16日	4月5日	4月19日	4月21日	4月11日
なし	幸水	4月21日	4月21日	4月13日	4月26日	4月26日	4月19日
	豊水	4月17日	4月17日	4月9日	4月24日	4月23日	4月16日
りんご	つがる	4月26日	4月26日	4月19日	5月1日	5月1日	4月23日
	ふじ	4月27日	4月26日	4月18日	5月1日	5月1日	4月23日
おうとう	佐藤錦	4月22日	4月19日	4月14日	4月28日	4月25日	4月20日

注) 平年値は1986～2015年の平均値 (オウトウは1994～2015年)。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月16日	4月19日	4月8日	4月25日	4月25日	4月16日

注) 平年値は1988～2015年の平均値。

3 ももの発育予測

発育速度 (DVR) モデルによる「あかつき」の発育予測では、本年の硬核期開始は6月9日頃で平年より1日早い見込みである。

表3 ももの発育予測 (5月1日現在)

品種	硬核開始日		
	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月9日	6月10日	1日早い

注) DVRモデルによる発育予測。平年は1986年～2015年の平均。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。また、生育は各樹種ともに平年並からやや早く推移しています。1か月予報によれば、気温が平年並または低く推移すると見込まれているため、発育予測（表3）を考慮して、生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施しましょう。

（各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照）

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（平成29年3月22日）」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/207836.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため下草は5cm程度にこまめに刈り込みましょう。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。特に、花粉が無いもしくは少ない品種においては注意が必要です。

(2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数としましょう。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用します。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所（冷蔵庫が望ましい）に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぎましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご黒点病

落花直後から感染がみられ、特に落花10日後から30日後の期間に感染しやすくなります。そのため、この期間に降雨が多い場合は散布間隔が10日以上空かないように注意して防除を実施しましょう。

イ りんご黒星病

開花期前後が重点防除時期に当たるため、落花直後にDMI剤のいずれか（県病害虫防除指針参照）を散布し被害防止に努めましょう。

ウ もも灰星病

花腐れは果実への伝染源となるので、見つけ次第摘除し、適切に処分しましょう。

エ ももせん孔細菌病

4月中旬における春型枝病斑の発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年並でしたが、天候予報によると向こう1か月の降水量は平年並または平年より多いと予想されており、今後感染が拡大する可能性があるため（県病害虫防除所、平成29年4月25日付け病害虫防除情報）、注意が必要です。発生初期の密度抑制が重要であり、春型枝病斑は葉や果実への伝染源となるので定期的にはほ場を巡回し、見つけ次第せん除して適切に処分しましょう。また、落花10日後にせん孔細菌病防除剤を使用しましょう。

オ なし黒星病

伝染源である花そう基部病斑が見られる園では、病斑を見つけ次第必ず除去しましょう。また、開花後の薬剤防除は開花前の防除から散布間隔を10日以上あげずに効果の高いDMI剤（県病害虫防除指針参照）を十分量散布しましょう。なお、開花前後の散布期間が2週間程度あいてしまった場合は、園内での発生状況に留意し、発病部位の除去と今後の防除を徹底しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第1世代の防除適期は4月30日頃であったと推測されます。初期密度を抑えるため、落花10日後の防除を速やかに行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並に推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月5

半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予想されます。複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類越冬世代成虫の発生前と予想される5月3半旬頃までに設置しましょう。

ウ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月5半旬頃であったと推測されます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を使用しましょう。

エ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬成虫による被害は幼果の段階から発生する場合があります。このため、山間部や山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょ。

表4 果樹研究所における防除時期の推定（平成29年4月30日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	—	4月30日	5月17日	5月29日
平年並	—	4月30日	5月21日	6月4日
2℃低い	—	4月30日	5月27日	6月12日

注) 演算方法は三角法。起算日：3月1日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>